

2022. 5. 1 (日) ヨハネ20:30~31

**20:30** イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

**20:31** これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

<説教>

先主日には「疑い深い」トマス、よみがえりのイエスに出会ってイエスを「私の主、私の神」と告白したトマスのことを見ました。

いや、「疑い深い」トマスをあわれみ、トマスによみがえりのご自身をわざわざ現してくださり、そうやってトマスを励まし、トマスに「イエスは私の主だ、イエスは私の神だ」という信仰を与え、告白させてくださったイエス・キリストのことを見ました。

そのイエスはトマスに、「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」と言われたのでした。(20:29)

このようにイエスがトマスに言われたみことばは、今やトマスに対してだけでなく、今、ヨハネの福音書を、また聖書の他の書を、聖書のみことばを読んで神のみことばを聞く私たちに対しても語られています。

私たちはときどき次のようなことを考えることがあるかもしれません。

「もし自分があの時代、イエスがこの地上に生きておられた時に、あの弟子たちのように直接イエスを見て、直接イエスのみことばを聞いて、イエスが行われた奇蹟のみわざを直接に見ていたらどんなによかったらう…。そうすれば疑うことなく、もっと簡単に、またリアルにイエスを信じることができるのに…。もっと信仰が支えられ、また強くなるのに…」と。

または「それが無理でも、あの時代の弟子たちが今の私たちよりもっとたくさん聞いたり見たりしたに違いないイエスのみことばやみわざのことが聖書の中にもっと書いてあったらいいのに。そうすればきっと今よりも疑うことは少なく、今よりももっと信仰が支えられ、ずっと信仰が強くなるのに…」と。

しかし、そう考える私たちに、まず何よりも「見ないで信じる人たちは幸いです。」というイエスのみことばが改めて響きます。

そして使徒ヨハネも、**〈イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない〉**(30)と仰うのです。

つまり、「私(ヨハネ)だってイエスが弟子たちの前で行われたほかの多くのしるしをこの書(福音書)には書かなかった」と仰うのです。

実際、他の福音書には記されているところの、特にガリラヤ地方でイエスが行われた**〈多くのしるし〉**についてヨハネはあまり書いていません。

そしてこの福音書の最後の最後にも、**〈イエスが行われたことは、ほかにもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと、私は思う。〉**(21:25)と丁寧にも改めて書かれています。

そしてヨハネは、**〈書かれていない〉**ことではなく、**〈書かれた〉〈これらのこと〉**(31)

ことこそが大事だと言うのです。

いや、むしろ〈書かれた〉〈これらのこと〉だけで全く充分だ、とヨハネは言うのです。

〈これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。〉(31)

使徒ヨハネによって〈これらのことが書かれた〉のは、紀元 90 ~ 100 年頃と考えられていますので、もうその時は他の使徒たちの多くはもうこの世にはいなかったでしょう。

また他の、実際にイエスを見たり、イエスのみことばを聞いたりした人たちも多くは生きていなかったでしょう。

だから、当時既にイエスのいわば生き証人はどんどん少なくなっていたわけですから、十字架の死とよみがえりのイエスのことは、〈書かれた〉こと、そして使徒たちが、また教会が、キリスト者たちが宣べ伝えた言葉によってしか知ることはできませんでした。

また当然ながら、福音が宣べ伝えられた地中海世界の人々は当時であっても十字架とよみがえりのイエスを直接見たり、みことばを直接聞いたりはできませんでした。

彼らも、「イエスの復活の証人」である使徒たちが宣べ伝える福音を聞いて、また使徒たちによって〈書かれた〉福音、手紙を読んで〈イエスが神の子キリストであることを〉〈信じ〉、〈また信じて、イエスの名によっていのちを得〉たのです。

そのことは今の私たちについても同じです。

私たちが今〈イエスが神の子キリストであることを〉〈信じるため〉、〈また信じて、イエスの名によっていのちを得るため〉に必要なのは〈これらのことが書かれた〉〈書〉で充分なのです。

〈これらのことが書かれた〉〈この書〉とは直接には「ヨハネの福音書」のことですが、今はそれも含めた「聖書」のことだと当然言うことができます。

聖書は私たち読む者が〈イエスが神の子キリストであることを〉〈信じるため〉、〈また信じて、イエスの名によっていのちを得るため〉に書かれました。

聖書は単なる人生訓でもなく、道徳書でもなく、賢い生き方を教える書でもなく、教養書でもありません。

私たちが読むことで、聞くことで、私たちがよみがえりのイエスを〈見ないで〉、しかしよみがえりのイエスと出会い、〈イエスが神の子キリストであることを〉〈信じるため〉、〈また信じて、イエスの名によっていのちを得るため〉に、私たちがよみがえりのイエスを〈私の主、私の神〉と信じて告白してほしいと願って、使徒ヨハネや他の聖書記者は書いたのです。

そのように使徒ヨハネを通して私たちにお語りになり、願っておられる主イエス・キリストのみこころを知り、そのみこころに従って、信じて、死んでも生きるイエス・キリストの永遠のいのちを得るように祈ります。

なお、そのように、聖書を読んで聞いて、イエスを〈見ないで信じる人たち〉のために、その信仰を支え、強めるために、主イエスは「見える」〈しるし〉を備え、与えてくださっています。

それが聖餐式で毎回私たちが与るところの、イエスが「わたしのからだ」と呼ばれる「パン」であり、「わたしの血」と呼ばれる「杯」(ぶどう酒)です。

その主の恵みに感謝して主の聖晩餐に与りましょう。

